

116 - 2 岩瀬文庫（国語）

(1) 研究開発の概要

岩瀬文庫は、明治 41 年西尾市の豪商岩瀬弥助が私財を投じ、独力で設立した私立図書館が始まりで、今年創立 100 周年の歴史を持つ文庫である。重要文化財の指定を受けた資料をはじめ、古典籍から近代の図書、日本ばかりでなく中国や朝鮮のものまで、蔵書数 8 万点余、日本中の古書の 1 / 30 を所有、孤本、稀覯本も多く、最初から図書館の開設を目的として蔵書を購入したため、あらゆる分野の資料がそろっている。

今回の研究では、岩瀬文庫所蔵の写本、活字印刷本、木版印刷本の実物にふれ、わが国の書物文化の歴史について学び、書物についての理解を深めることを目標とした。文庫の学芸員、林知左子先生に詳しい解説をお願いした。終了後、参加者全員にアンケートを実施した。

(2) 仮説（ねらい）

ア わが国の書物文化の歴史について理解する。

イ 本の装丁の種類（卷子本、折り本、粘葉装など）について学び、その扱い方を体験する。

ウ 企画展（「西尾市民が選んだ 34 点」）で当館の代表的な作品「本草図説」、「東海道地図」、「解剖存真図」、底本「枕草紙」などを閲覧する。

エ 「源氏物語」（写本）、「伊勢物語」（最初の版本）、江戸時代の出版物を実際に手にとって閲覧し、書籍の装丁や当時の出版物の享受のありかたについて理解する。

(3) 研究の方法、内容

ア 対象生徒 希望者 30 名（男子 8 名女子 22 名）

1 年男子 6 名女子 1 名 2 年女子 5 名 3 年男子 2 名女子 16 名

イ 実施日程 平成 20 年 8 月 23 日（土）

ウ 実施場所 西尾市岩瀬文庫（西尾市亀沢町 480）

エ 実施内容

(ア) 岩瀬文庫について

a DVD鑑賞……岩瀬文庫の歴史について

b 蔵書について解説（学芸員 林 知左子先生）

(イ) 常設展、企画展（「西尾市民が選んだ 34 点」）見学

「本草図説」（高山春山）、「東海道名所一覧」（葛飾北斎）、奈良絵本「住吉物語」、「枕草紙」など、当館所蔵の有名な作品から、江戸時代の化粧の指南書「<女子風俗>化粧秘伝」、緻密な解剖図「解剖存真図」などユニークな本、夏目漱石の新聞インタビュー自筆原稿「文壇の趨勢」など珍しいものまで、学芸員の先生の解説を聞きながら見学した。

(ウ) 実習・古書の扱い方

学芸員の先生の説明に従い、卷子本、折り本等レプリカを用いて扱い方を学習した。

(エ) 古典籍の閲覧

事前に生徒が見たい本をリクエストしておき、それらを直接手に取って閲覧した。「源氏物語」「伊勢物語」



常設展の説明を受ける生徒たち

「雨月物語」「東海道中膝栗毛」など、古典の時間に学んだ作品、貴重本「紺紙金字長寿王経」、写実的で色の美しい「平安読書室の図譜」の数々、江戸時代の芝居のちらしを編集した浮世絵「武陽観場画譜」、銭の親子の物語「再親子銭独楽(めぐりあはせおやこのぜにごま)」、(黄表紙)、挿絵の美しい豪華装丁絵巻「道成寺絵巻物」、「三都角力番付」など、たくさんの本を、学芸員の先生の詳しい解説を聞き、手にとって見る事ができた。

また、午前中に書物の歴史について話を聞いたので、江戸時代の刊行物が読者のニーズに合わせて形態を変えていく様子が、仮名草紙、赤本、黒本、青本、黄表紙、合巻、前期読本、後期読本と実物を手にすることでよく理解することができた。



巻子本の取り扱い方体験

(4) 検証(結果と反省)

ア アンケートの結果

- 1 岩瀬文庫について知っていましたか？
 知っていた(1) 知らなかった(29)
- 2 岩瀬文庫に来るのは今回で
 初めて(30) 2回目以上(0)
- 3 研修内容について
 - (1)岩瀬文庫についてのDVD、解説について
 よかった(14) 概ねよかった(14) あまりよくなかった(0)
 期待はずれだった(2)
 - (2)常設展・企画展解説(「市民が選ぶ岩瀬文庫の34点」と見学について
 よかった(22) 概ねよかった(7) あまりよくなかった(1)
 期待はずれだった(0)
 - (3)実習：古書の扱い方
 よかった(17) 概ねよかった(13) あまりよくなかった(0)
 期待はずれだった(0)
 - (4)「古典籍の実物に触れる」について
 よかった(23) 概ねよかった(7) あまりよくなかった(0)
 期待はずれだった(0)
 - (5)研修内容についてどの内容が一番おもしろかったですか？
 岩瀬文庫についてDVD鑑賞、解説(0) 常設展・企画展解説と見学(7)
 実習：古書の扱い方(1) 古典籍の実物に触れる(22)
- 4 今回の研修に参加して、
 よかった(24) 概ねよかった(6) あまりよくなかった(0)
 期待はずれだった(0)
- 5 次回、岩瀬文庫に来るとしたら、どのような研修を受けてみたいですか？
 - ・今回と同じでいい。
 - ・和綴じの本を実際に作ってみたい。
 - ・『本草図説』がもっと見たい。
 - ・くずし字を読めるようにしたい。
 - ・版木を実際に使ってみたい。
 - ・紙背文書についての講義を受けたい。
 - ・今回見られなかった本を沢山見たい。

- ・古典籍にまつわるさまざまな知識を教えて欲しい。
- ・書庫の中の見学

イ 生徒の感想

(ア) 学芸員の先生のお話が面白くて楽しかったです。昔の人の生活も、今の私たちの生活と変わらないところがあるんだなあと思いました。実際に古典籍に触れるのは、初めてのことで楽しかったけど、文字が全然読めなかったので、もう少し、勉強してから来たかったです。(1年女)

(イ) 人数が多くて立ったままだったり、古書の扱い方も見ているだけだったりして疲れてしまったので、2班に分けて研修を受けたかった。研修の内容は、本の中身だけでなく、印刷の歴史や本の形態、その本がたどった軌跡など、さまざまなことが知れてためになった。学芸員の方の話を聞いていて、本当に本が好きなんだなあとわかり、聞いている側も楽しくなれるようなすてきな時間だった。また機会があればこのような体験をしたいし、大学に入ってから役立てたい。できれば2年生のときにやってほしかった。(3年女)

(ウ) 『伊勢物語』にしても『源氏物語』にしても、全ての内容を知っているわけではないので、自分が開けているページがどういう場面なのかわからなかったのが残念だった。少人数に分かれて、小グループにつき1人の職員の方についていただいて、より詳しい説明がうけられたら、と思う。卷子本の開き方、しまい方や古典籍を見る時の注意など、学ぶ点がいっぱいあった。(3年女)

(エ) この世に一冊しかない本など直接触れ、見ることができて本当に良かったと思った。また、自分は字に興味があるので、仮名文字や漢字などいろいろ見ることができてよかった。また、絵や絵巻物なども見ることができ、いろいろな種類の古典に親しむことができたのでよかった。ただもう少し古典籍の実物に触れる時間がほしかった。(3年女)



古書の閲覧

(オ) 林先生の細やかな解説がとても良かったです。今まで日本史や古文で習うだけで受け身だったものが、実物に触れることや、林先生の解説を聞くことでより身近に感じるようになりました。今、私たちは紙、本がそこにあるのが当たり前の中にもいますが、かつてどれだけ貴重なものだったか、手に入れるのにどれほどの苦労があったのか等を知ることができました。率直な感想としては、愛知にあれほど優れた文庫があるのに驚いたことと、とにかく絵、字が上手！！とても楽しかったです。(3年女)

ウ 今後の実施に向けて

(ア) 生徒のアンケート、意見からも大変有意義な研修であったと考える。次年度も可能であれば継続したい。

(イ) 施設の規模、研修内容からすると、30名程度が限界である。古書を閲覧する部屋(2階閲覧室)は一般客の利用もあり、30名入るのは無理があった。閲覧の方法、場所を考える必要がある。

(ウ) 自由時間は昼の1時間30分。しかも、学芸員の解説が延長し15分短縮。生徒からも「自由時間が短い」、「もっとゆっくり本に触れたかった」という意見が多く出た。研修内容を精選することが必要である。